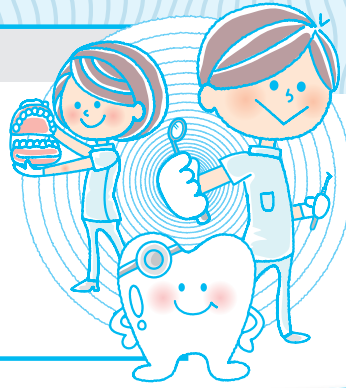


歯科医療 最前線

vol.4

〔 地域医療・訪問医療 編 〕



地域医療の未来に歯科医師は欠かせません。

高齢者にこそ、かかりつけ 歯科医師が必要です。

病気があり外出、通院ができない高齢者、寝たきりの高齢者のために、家庭を訪問して治療や、食べ物を噛む・飲み込むといった機能訓練を行う歯科医師が増えています。いまの診療機器はコンパクトになり、ワゴン車1台で訪問診療に出かけられます。介護老人保健施設などからの要請も多く、“走る歯医者さん”の活躍の場は広がっています。

歯科医師は患者さんにとって一番身近なお医者さん。高齢の方に限らず、日頃から歯の健診や口腔ケアを行う中で他の病気を発見できることもあります。歯科医師が口腔医学だけでなく全身への知識と理解をもち、頼りになるホームドクターとして介護医療や終末医療にも関わっていく、そんな時代が始まっています。

命にかかわる歯や口のばい菌。 歯科医師のケアが重要です。

日本人の三大死因といえば、がん、心疾患、脳血管疾患です。65歳以上の高齢者になると、これらに続く4番目に多い死因が肺炎です。肺炎は口の中のばい菌やウイルスが気管に入り込み肺の炎症を引き起こす感染症ですから、予防には歯磨きなど口腔ケアで口の中を清潔に保ち、抵抗力を高めることが大切となります。

しかし、高齢者は「嚥下障害」といって食べ物をうまく噛めない、飲み込めない、むせるといった状態の人が多くなります。神経や筋肉の衰え、認知症の進行による口の機能の低下が主な原因ですが、とくに介護が必要な方や寝たきりの方は食べ物が気管に入ってしまう誤嚥（ごえん）を起こし、一緒に口の中のばい菌が肺に入り、誤嚥性肺炎で亡くなる場合が多くなります。これを

防ぐためには、ふだんから口腔清掃をしっかり行うことが極めて効果的であることがわかっています。さらに、歯科医師のケアが加われば、死亡のリスクは4分の1に減らせるのです。

身近にかかりつけの
歯医者さんがいると
安心だねー



TOPICS

訪問歯科診療を実施しています。

北海道医療大学病院、歯科内科クリニックとも、地域社会への貢献の一環として、1995年（平成7）より訪問歯科診療を実施しています。両院で札幌市北区あいの里エリア、当別町をカバーし、高齢者、体の不自由な方など通院困難な方、年間およそ200人に利用されています。患者さんが入院・入所中の病院や福祉施設、または自宅に、歯科医師と歯科衛生士が出向き、義歯の調整・製作・修理、むし歯・歯周病の治療、口腔ケアなど、院内と同レベルの医療サービスを提供中。まだ認知度の低い訪問診療ですが、患者さんの生活に寄り添ったきめ細かな対応ができる“かかりつけ歯科医師”は、確実に地域で頼りにされる存在になってきています。



訪問診療用の機器はコンパクトながらも一般歯科のユニットと同等の機能を持ち、歯科医院で行う治療のほとんどを訪問診療でも可能にしています。